



五月号

今月の十人十一

深山睦美

ただのたなか

きんかく

彩結ゆあ

武井窓花

森屋たもん

全美

鈴木智花

偽名

海

吉田岬

発行人 吉田岬

二〇二五年五月十日 発行

海がきこえた ただのたなか

どうしてもきみの横顔を忘れないだけで何も変わらない朝
帰れない場所がひとつ増えた日の夕焼けがまだ笑っていた
はしゃいだら少し近づける気がしてつま先だけで立っていた午後
手をふれば誰もいないと知っているでも振り返るくせが抜けない
一言で全てが変わると知っていて言えなかった。だから祈った
缶珈琲が寂しい味で良かったなきみの話をちゃんと聞けたし
駅までは波の話をしたりしてふたりでいても少し寒かった
終わらない音がまだ鳴るあの夜に踊ってばかりのきみは海だった
触れたのはからっぽの目と冷えた皮膚それでも全部欲しくて泣いた
風までもきみの味方と思ってたやがて沈黙海がきこえた

ビカムヒューマン 深山睦美

セーターを着せられているロボットに襲いかかった野生のロボット
旧式のロボットたちはコンテナの隅で寄り添いあって眠った
子守用ロボットAは幼児型ロボットBを抱いて眠った
ワタクシハ キカイダカラ と言わせよう泣けるロボットとして売るために
ロボットが自殺をした日、人間が人間だけじゃ無くなった日に
故障ではなく自殺だと主張する声にノイズのある遺族ロボ
戦争をさせられていたロボットの受け入れ先がまだ決まらない
幽霊が怖いかという項目にtrueを返す元兵器ロボ
ガンダム形のチョコをロボットにあげようきつと喜ぶでしょう
被告人破壊ロボ甲、延内で目からオイルを垂らすんじゃない

浴びたくなる陽射しの季節に 彩結ゆあ

雑草の生き生きしさを見習いたい草むしりだるい五月の言い訳
痛い暑い苦しい辛い辛いもの美味しく食べたい道のり長い
泣きたくない散るたび泣けば花よりも先に私の水が足りない
スターチス 登場人物ふたりでも記憶はふたつと限らず雨漏り
寂しいけど寂しさまみれはねちよねちよとしていてあまり寂しくなさそう
傘と傘立てはなるべくこだわって雨を嫌いになれずにいたい
あとがきは人生でいうどの部分 余韻の味わい方を知りたい
おばあちゃんになる想像はおばあちゃんもうまくできずに老い老い死んだ
母の日を母の日として過ごしたことなくとも私、愛がわかるよ
あきらめることとがんばりすぎることおんなじくらい悔しい 撫でる

星月夜 きんかく

寂しさと手を繋いだらこいぬ座のような微かな光 あなたへ
午前二時踏切へ行く体力があるわけなくて頬に彗星
やれるだけやっても無理Jupierはこの先ずっと恒星じゃない
万物に愛は必要ないことを囁き続けて アリストテレス
星に名をつけるみたいにしに新しいあだ名ください燃え尽きるまで
〔眠る〕とは過去の光の眩しさに目を閉じ夜を耐え忍ぶこと
喪失の単位はパルス 生きている 生体電気の痛みを持って
この星の奇跡を使い果たしても二度と会えない春、星月夜
明星に夜道を照らす義務はなく今日は誰にも笑わなくていい
梓組みを定めるように抱きしめてほしい孤独がここにありますが

427 号室 森屋たもん

病室の窓から見える筑波山の前に聳えるジョイフル本田
患者用トイレはたった一つだけなのに手洗い場は二つある
医師看護師薬剤師みんな親切で患者はたまにやなやつがいる
茹でられたじゃがいもの白さ晩飯のおかずがこれだけなことにびびる
夢の中で常磐線はまだ白い 制服で缶ビール飲んでいる
院内にデイリーヤマザキがあつて電気代とかは払えないみたい
松戸市に都営の墓地があり松戸市民は入れないってウワサ
外されたプロジェクトのLINEグループに打ち上げの写真 いいねだけする
病室の窓から見える県道で速度超過するすべての車

無音 武井窓花

五番目のひになります五番目はつまりいちばん最後のひとり
たのしげなお祭囃子こんにちとはところで何故生まれてきたのです
雨降りの午後に埋もれる一片の紙片恥ずかしい過去ばかり
永遠に忘れることはできませんだからわたくしに来る永眠
余計なことばかり言つてたぶんもう散つた花だと思われている
さようなら君の名前は忘れないたとえ今が新月の夜でも
筆圧が強すぎるから付いた跡僕のやりかたで空を破つた
銀色がひかっているね金色とならんでひかっているねどちらも
スパークリングワインの透明がきれいだ僕はずっとずっと無音だよ
今朝までにハナミズキは開花しました夏が好きなら忘れてくださいね

おままごと 鈴木智花

わたくしはわたくしあなたはあなたのみま本人役ですおままごと
ハレはなくいつでもケの日抱き合つてクリームパンも半分こする
抱き合ふも食ふも眠るも真剣にだから楽しいだから疲れる
壊れ物みたいに大事してくれる壊れないからもつと遊んで
熟れた実を摘みあふキズも不揃ひもすべて楽しむすべて食ぶる
この遊びいつまでできるなままとした幸せに胸やけがする

鳩になる日 全美

鎌倉の駅を降りたら鳩サブレ鳩鳩鳩の群れ押し寄せる
豊島屋と言えども知らぬと君は言う鳩の店だと首を前後に
お土産は黄色い箱と決めているこれで5箱目豊島屋鳩サブレ
拳銃のように持つ時引き鉄は鳩の尾羽で心許ない
ポツポツてキスせまる祖父の顔やさしい人はすぐいなくなる
鳩サブレ買うと生きた鳩がお辞儀する行き届いた教育(嘘)
駅前のハト捕まえてプレスしてそうして出来た鳩サブレ(嘘)
鳩、世界平和を祈る鳩サブレにして食うその狂気性、好き
豊島屋の前を三度通りすぎ途切れぬ会話がじやまをしている
観光をしてるふりして歩いてるただ歩いてるだけの二人に鳩

産まれたばかりの天気のように 海

負かされることを知っても君を見る産まれたばかりの天気のように
Lamento といえば五月の雨が降る からすのようにそれを見ている
朝もやは確定演出あかねさす田んぼと田んぼの時間をあくる
目の中に迷い込んだかたつむりを潰してあげる六月の夜
Dooom アンド Grooom o の中に二人で住もう悪夢を選んで
オーシャンかシーかで喧嘩したままの僕らが出逢う七月の海
(inside, outside) に海はあり、記憶の中で泳いでもいい
君の手を揉みしだいてる五分後に八月になる不安の中で
人生 ほろんでいてもいなくても君が笑えばつられて笑う
ブルタブを引けば真夏がかぐわしい 季節はいつも始まるばかり

偽名 偽名

田舎にいるやべーじいさんコレクション レジを待てずに焼酎をのむ
あらあなた熱ありそうと言いながらわたしの額を触る野呂さん
ミズナラを大事に抱えすこしだけ踊って帰る奈良さん
ウイスキーボンボンが好きと言うわりに酒は呑めない大山社長
店に来て無言で小銭を置いたまま煙草を買って帰るおじさん
国産が口癖だったヤスさんが夫を亡くして缶詰を買う
この車買わないかって二十年乗った車を見せられたって
二十円切手3枚2時までに役場に届けろというファックス
たまに来て注文制の商品をまた無いのかよと吐き捨ててゆく
帰ろうとするお客さんを引き留めてそのまま父が話し続ける

X account

深山睦美	@57577_77575
ただのたなか	@Shironopa_ka_
きんかく	@kingkaku_tanka_
彩結ゆあ	@iromusubi_yua
武井窓花	@tanka_madoka
森屋たもん	@monsontanka
全美	@ZENMIN15
鈴木智花	@SuzukiTomoka106
偽名	@tankaofmisaki
海	@umi915uta
吉田岬	@tankaofmisaki

四 優勢論 吉田岬

Eugenics 梅は正しい枝だけを残してあとは殺されました
社会的ダーウィニズムを追いかけて私は子供を残せない方
雨降れば雨の匂いがわからないそもそものにももうわからない
死のような忘却そしてかなしみのような静寂たちの集まる夜に
仏教の説ける解脱を知りつつも来世の話をすると楽しい
土なべて美しからぬものたちがわたしの足をあたためている
異界なら優生学は単純に普人族みな死すべきでしょう
イカゲームまだ見ていない蠱毒なら生き残っても使われるだけ
剪定を嫌う桜は優しいか道染めしのち散りゆく吉野
一度だけ実を付けたのち倒されるバナナを生と君は呼べるか

